

# 修復された被災文化財

## ― 小梁川・大梁川遺跡 ―

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、当館は別館である浮島<sup>うきしま</sup>収蔵庫の収納棚が倒壊・破損するなど、大きな被害を受けました。資料も縄文土器<sup>じょうもんどき</sup>を中心に200点を超す被害があり、屋外展示施設の古民家「今野家住宅」も大きな被害を受けました。当館ではこれらの資料を再び公開することができるよう、平成23年度から文化庁の補助金を受けて修復作業を行っています。

修復を終えた資料についてはテーマ展『修復された被災文化財』として平成25年度から順次、公開してまいりました。

今回、シリーズ第4弾として七ヶ宿町小梁川・大<sup>しちかしゆくまちこやながわ</sup>梁川<sup>おお</sup>遺跡<sup>やながわ</sup>の遺物を紹介いたします。

七ヶ宿ダム建設に先立って行われた発掘調査で、小梁川・大梁川遺跡から縄文時代の数多くの住居跡や貯蔵穴、埋設土器遺構などとともに、多くの遺物が発見されました。それらは先人の生活を知るうえで、いずれもかけがえのない貴重な文化財として、これまで展示や公開、あるいは大切に収蔵してきたものです。

このたびの東日本大震災によって多くの土器は被災し、ようやく修復を終えた資料を中心に、ダム湖に沈んだ先人たちの暮らしぶりがわかるような展示となるよう努めました。

本展開催にあたり関係の皆様には厚く御礼を申し上げます。